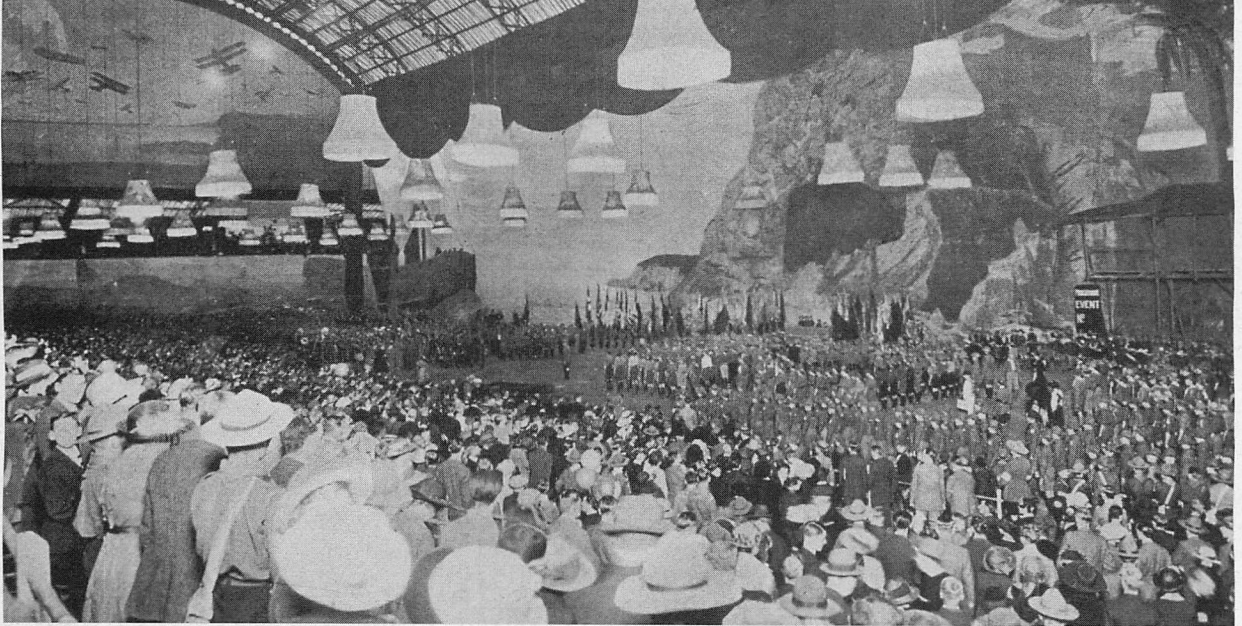


1920

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト

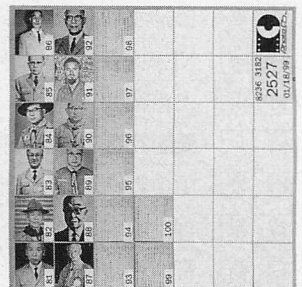


21世紀へ受け継がれる精神 スカウト運動の原点

ボーイスカウト日本連盟写真集 Vol.5



財団法人ボーイスカウト日本連盟



「ボーイスカウト日本連盟写真集」と聞いても、ピンとこない加盟員の方も多いことと思います。これは、現存する、日本のボーイスカウトに関連した貴重な資料をまとめたものなのですが、写真集といってもアルバムのように印刷されたものではなく、フォトCDの形で、ディスクにデジタルデータとして収められているのです。一枚のCDに一〇〇点の写真資料が収められた全五巻。計五〇〇点の「歴史の証人」です。

財団法人ボーイスカウト日本連盟の七五周年の記念として、二年半の歳月をかけて完成されたこの写真集は、ボーイスカウトのすべてが収録されていると言っても過言ではありません。運動にとっては宝物であり、加盟員一人ひとりにとっても価値の高い財産と言えるでしょう。

しかし残念ながら、需品部で販売しているわけではありません。作られたフォトCDは、わずかに二セット。ただ、その存在すらほとんど知られていないフォトCDでは、まさに宝の持ち腐れになってしまいます。そこで、今世紀最後の『スカウティン



ボーイスカウト日本連盟写真集

01-055

1921



第1回世界ジャンボリー 開催会場

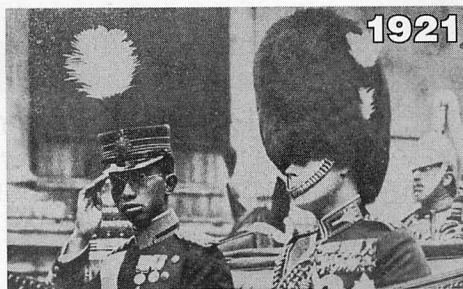
イギリス・ロンドンのオリンピア・クリスタルパレスの屋内で開催された。日本からは、小柴博、下田豊松、鈴木慎(英名リチャード鈴木)の3名が参加した。

「第1回世界ジャンボリーアルバム」

イギリスボーイスカウトの大集会における皇太子殿下(後の昭和天皇)。
上「皇太子殿下御外遊記」二荒芳徳・澤田節蔵著/下「日本ボーイスカウト運動史」

01-054

1921



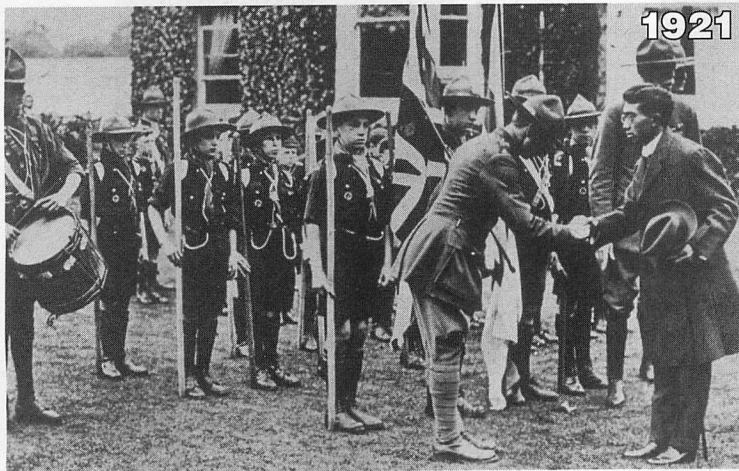
イギリス・ロンドン

訪英歓迎会に向かわれる皇太子殿下(後の昭和天皇)と、イギリス皇太子殿下。

「皇太子殿下御外遊記」二荒芳徳・澤田節蔵著

01-059

1921



HISTORY OF BOY SCOUT

グ」の特集では、幻のお宝写真を公開しながら、改めてスカウト運動の歴史を振り返ってみたいと考えました。

スカウト魂再発見

歴史年表を古い順に並べて、その年の事件や開催された行事、大会を羅列するだけであれば、さほど面白い記事になるはずはありません。それは、資料写真を古い順に並べても同じことでしょう。

このフォトCDは、資料センターに眠っていた古い写真を事務的、機械的にデジタルデータに置き換えただけのものではありません。膨大な資料の中から当時の様子を調べ上げ、コツコツと編纂していくという、きめの細かい作業が積み重ねられたのです。

歴史の時間の流れをタテ軸とするならば、ヨコ軸となる人間と人間の結びつき、そして運動を発展、普及させていくという信念と情熱、高い志、誇り、私たちの大先輩たちが生涯をかけて築かれた運動の礎。日々の忙しさに忘れかけている「スカウト魂」が脈々と流れていることを、改めて感じさせてくれます。

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



01-001



秋月左都夫(あきづき さと)氏
〈ベルギー公使〉

「秋月左都夫—その生涯と文藻」黒木勇吉著

01-002

ベルギー駐節は翌四十二年の十一月までで、一年有余にすぎなかったが、この間外交事務の処理以外ボーイスカウトの研究をしてそれが、日本におけるボーイスカウトの創始の端緒をなしておることは、有名な話である。

ベルギー駐節は翌四十二年の十一月までで、一年有余にすぎなかったが、この間外交事務の処理以外ボーイスカウトの研究をしてそれが、日本におけるボーイスカウトの創始の端緒をなしておることは、有名な話である。

ボーイスカウトの日本連盟四代目の総長三島通暲は、秋月夫人の兄三島邦太郎(日本銀行総裁の時永暲)の長男であるが、昭和四十年二月、毎日新聞に掲載した「ボーイスカウト十話」の中で、左のごとく述べている。

「ボーイスカウトの日本における起源。：日本に初めてボーイスカウトを紹介したのは牧野伸顕(当時文相)、北条時敬(広島高等師範校長後に学習院長)、乃木希典(当時学習院長)の三人である。牧野は元米寸道(寸道)を惜しんで新刊書を読む趣味があったが、ボーイスカウトが英国にできた、その翌年の一九〇八年に、もうその本を得て読み、その特徴をつかんで魅力を感じた。これは義兄のベルギー公使秋月左都夫が、ボーイスカウトを実地に見て感心し、文相の牧野にその資料を送ってよこしたのであった」。

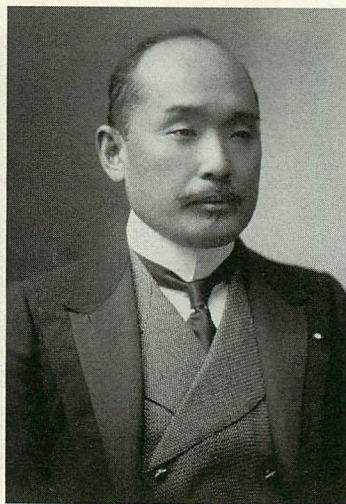
(黒木勇吉著「秋月左都夫—その生涯と文藻—」より)

「ベルギー公使とボーイスカウト」

1908年(明治41)、秋月氏がボーイスカウトに関心を持ち、これを研究して、義弟である当時の牧野伸顕文部大臣に資料を送った経緯が記述されている。

「秋月左都夫—その生涯と文藻」黒木勇吉著

01-003



牧野伸顕(まきの のぶあき)氏

〈文部大臣〉
時の文部大臣牧野氏は、北條時敬氏に、ボーイスカウトについて、英国での調査を命じた。

牧野家所有(借用)

01-004



北條時敬(ほつじょう ときたか)氏
〈広島高等師範学校校長〉

北條氏は、イギリス・ロンドンで開催された第1回万国道德教育会議に日本代表として出席するに際し、牧野文部大臣から、イギリス滞在中ボーイスカウトに関する調査を依頼された。

「偉大なる教育者」北條時敬先生」上杉知行著

今回の特集では、できるだけ多くの写真資料を公開したいと考えました。

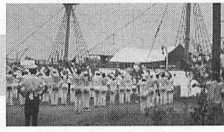
あなたはこれらの写真を見て、自分とは無関係な遠い過去の話だと思ってしまうか。それとも、現在の自分があるのは、創生期から代々受け継がれてきた精神によって支えられているのだと感じることができようか。

スカウト運動とは何なのか、問い直してみるチャンスかもしれません。

初めて見る写真、初めて聞かされる人名、歴史的事実も少なくないはずです。スカウト史のタテ軸とヨコ軸の関係を知識として身につけることは、きっとあなたの活動に役立つはずです。

スカウト運動の原点

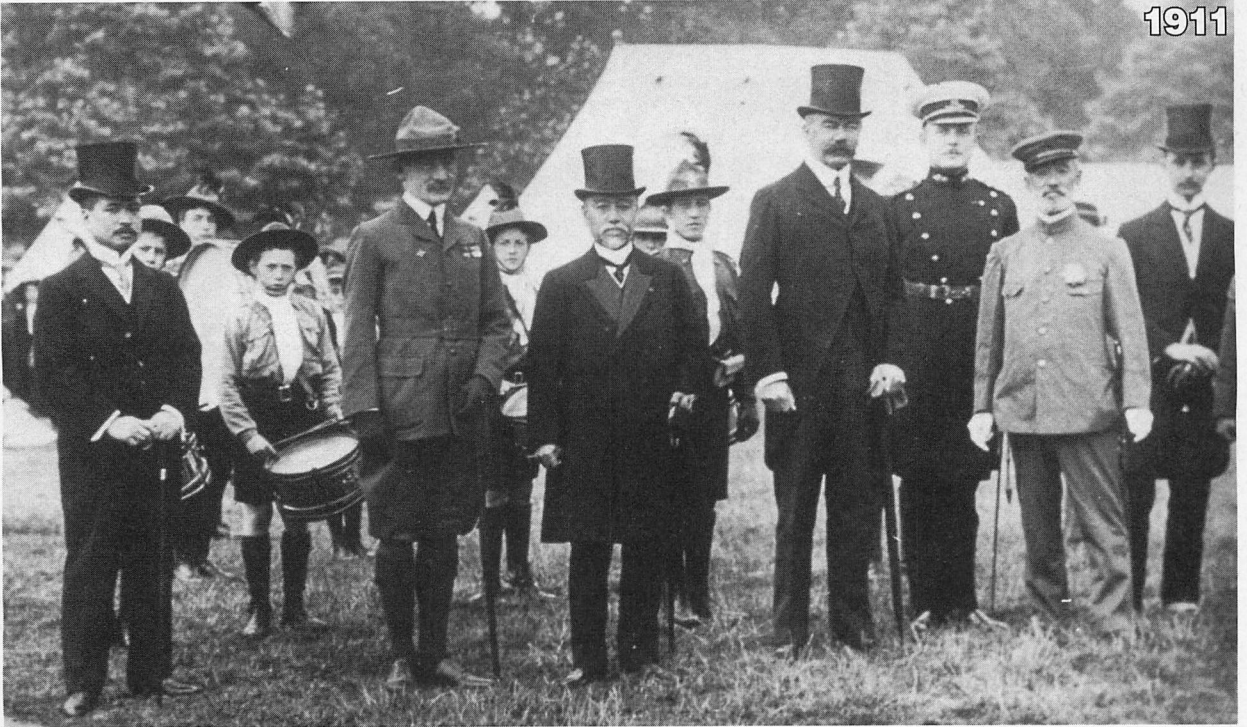
特集記事をまとめるにあたって、フォトCDを監修された廣瀬文一氏、編集を担当された下田雅氏のお話を伺いました。「ボーイスカウト日本連盟写真集」の制作に直接携わられた両氏だけに、その思いもまた強く、深いものがありました。編集作業の苦勞話、資料を見直す中で新しく発見された事実や、これまであまり知られていなかったエピソード等、次か



ベーデン-パウエル卿と東郷、乃木両大将

01-008

1911



イギリス皇帝ジョージ5世の戴冠式に明治天皇のご名代として東伏見宮依仁親王、同妃殿下が差遣されたとき、東郷平八郎、乃木希典両大将が随行した。両大将は、ロンドンで、キッチナー元帥（ボア戦争時のイギリス軍司令官）およびB-Pに案内されて、スカウト活動を視察した。「日本連盟アルバム」

クリアランス・グリフィン氏

グリフィン氏は、横浜山手居留地に住み、同市海岸通りで雑貨商を営んでいた。在日外国人の子弟18名を集めてボーイスカウト隊を結成し、1911年（明治44）10月12日、横浜ゲーテ座において横浜ボーイスカウトの発隊式を行った。「日本連盟アルバム」



01-013

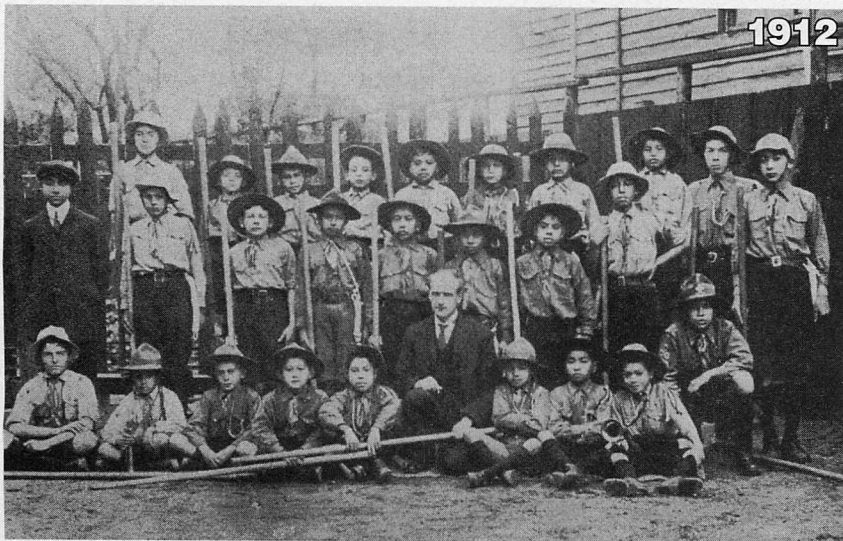
1911

ら次へとお話いただきました。
日本のボーイスカウト運動の始まりについては、大変興味深いものがありました。一九〇八年、ベルギー公使の秋月左都夫氏が、義弟にあたる当時の文部大臣・牧野伸顕氏に、「英国では、ボーイスカウトなるものが始まったらしい」と伝え、それを受けた牧野氏が、広島高等師範学校校長の北條時敬氏に、英国での調査を依頼したのです。

考えてみてください。ベーデン・パウエルがブラウンシー島で実験キャンプをやった翌年には、遠い東のはずれの島国にまでその情報が届いていたのです。通信の手段や報道のネットワーク網については、現代とは比べようのない時代なのです。それほど、ボーイスカウトの誕生、その教育理念が、社会にインパクトを与えたということなのでしょう。そしてまた、秋月氏に先見の明があり、運動の実体、精神が明確になるに従って、感銘を受ける人が増えていったということなのでしょう。

言葉も文化も違う国で始まった教育の運動が、なぜ、こんなにも早く

フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



01-015
1912

01-014

戦前の少年団

(明治44年～昭和15年)

神戸地方連盟生まれる

世界の総長バーデン・パウエル勲が神戸を訪れたのは1912年、明治45年4月7日であった。(同年8月から大正と変わる)

港は市内を見物して、深夜の船で海上に向かわれた。この時、ウォーカー先生に率いられた神戸のボーイスカウトが歓迎した。

着の日記には下記のとおり記されている。
Kobe: modern sea port alongside odd Jap Town Hyogo under very ravine wooded hills. Walker of local Boy Scouts met me.



神戸のボーイスカウト運動
創始者 F・ウォーカー氏

〈神戸は古い日本の典型的の兵隊に似た近代た港で、木々が茂った山にある。この地のボーイスカウトとウォーカー氏に会う。〉

有「バーデン・パウエル伝」]

兵隊風のスカウト運動を回想し、将来の発展を決定する再建25周年に当たって、私たちはまずこの運動を創始されたバーデン・パウエル勲が親しく神戸の地に足跡を印せられたこと、そしてボーイスカウトが対出遇したことを銘記しておかねばならない。

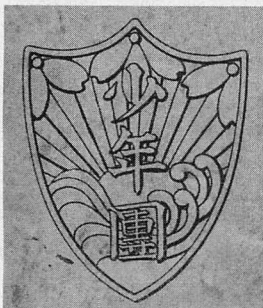
フレデリック・ウォーカー氏は当時20歳。英國聖公会の牧師であり、イカニカ教会に仕え、そのかたわら英語を神戸に在住日本の青年に教えていた。バーデン・パウエル勲が対出遇したのは神戸ボーイスカウト隊であって、

フレデリック・ウォーカー氏(神戸ボーイスカウト隊創始者)

ウォーカー氏により、1912年(明治45)3月、神戸にボーイスカウト隊が発足した。ウォーカー氏は当時20歳。英国聖公会の牧師としてミカエル教会に仕え、日本の青年に英語を教えていた。ウォーカー氏は、在日外国人の子弟とともに、日本の少年も受け入れた。その少年の中に、戦前のボーイスカウト運動に尽力した、後の日本連盟先達・古田誠一郎氏もいた。

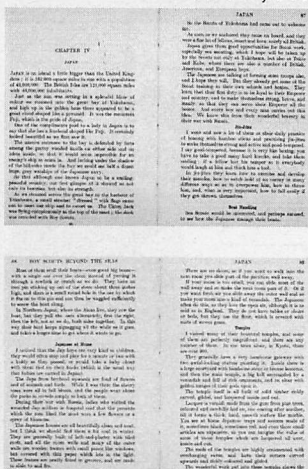
「兵庫ボーイスカウト25年のあゆみ」／「少年軍団教範」 深尾韶著

01-035



大日本少年団 記章制定
「少年団指針」東京少年団編

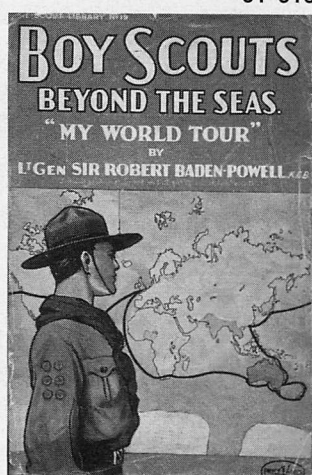
B-Pの「世界旅行記」より(日本の部)



01-017, 018

01-016

B-Pの「世界旅行記」表紙



1912年(明治45)、B-Pは世界旅行に立ち、アメリカ各地での講演の後、シアトルからミネソタ号で日本へ向かった。4月2日、横浜港でB-Pを迎えたのは、グリフィン氏の横浜ボーイスカウト隊であった。

「BEYOND THE SEAS—"MY WORLD TOUR"」

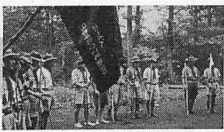
日本に受け入れられたのでしょうか。忘れてはならないのが、理念の普遍性、そしてもう一つ、日本の国を発展させるため、豊かにするために、青少年に対する真の教育が必要であるという潜在的ニーズが存在したこと。運動は、それを実現するために、私財をなげうち、生涯をかけて献身的な努力を捧げた人々の情熱に支えられていたのです。

もちろんそういった形で創生期の運動に尽力した方々の肖像も、フォトCDには取められています。そして、各県、各地域には、有名人・著名人ではなくとも、やはりボーイスカウト運動を普及させるため、少年たちのため生涯無償の奉仕を続けてくださった方々が数え切れないほどいるはずなのです。

少年たちのために無償で奉仕し、新しい日本の教育の礎となるべく道を切り開こうとする生き様は、スカウト精神そのものであり、運動の原点ともいえるでしょう。

使命感と誇り

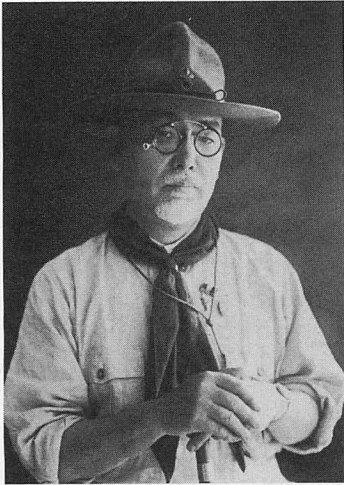
「自分はスカウトである」という強



01-064

01-062

01-061



後藤新平 (ごとう しんぺい) 氏
〈少年団日本連盟 初代総裁〉
〔日本連盟アルバム〕



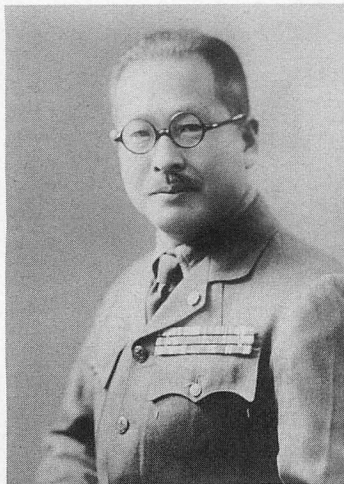
ボーイスカウト発祥記念の少年像。〔日本連盟アルバム〕



第1回全国少年団大会 開催会場

第1回世界ジャンボリー開催の成果や皇太子殿下(後の昭和天皇)が訪英中にエジンバラのボーイスカウトを前にして述べられた「おことば」が動機となって、日本におけるボーイスカウト運動の全国的な統一組織づくりが進められた。1922年(大正11)4月13日、第1回全国少年団大会が静岡市の城内小学校で開催され、ここに《少年団日本連盟》が発足した。
〔日本連盟アルバム〕

01-065



二荒芳徳 (ふたら よしのり) 氏
〈少年団日本連盟 初代理事長〉
〔日本ボーイスカウト 静岡連盟五十年史〕

01-069



東京・日比谷公園。少年団日本ジャンボリーにおける参加団の演技大会。

〔大日本少年団及日本ジャンボリー写真帖〕

い使命感が、日本での運動の土台となり、全国に拡がっていくのです。その後、世界大戦を経て、日本の教育の様子も変わっていききました。

創生期には発祥の地である英国を模範としていた日本のスカウト運動が、戦後は米国の影響を受けるようになりました。米国もまたスカウト運動の盛んな国ではありますが、両国の成り立ちというか、お国柄の違いもあり、うまくかみ合わない部分もあったようです。下田氏によると、組織は米国式、指導は英国式で、その間に生じる矛盾を調整するのが、日本式の知恵だということです。

また廣瀬、下田両氏は、「昔はよかつたというわけではない。時代や社会環境も違うから、現代と簡単には比較できないが、当時の指導者が持つていた使命感や誇りには学ぶべきものがあると思うし、受け継がれていってほしいと思う。規則や方法論を正確に伝えるためのマニュアルも大切だが、“魂”を伝えるということも忘れてはならない」というお考えを話されていました。

現在、ボーイスカウト運動は、あら



フォトCDで振り返る 20世紀の日本のボーイスカウト



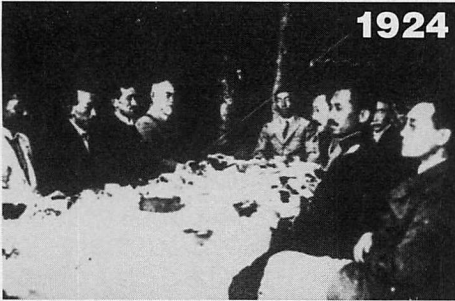
01-083

1924

第1回全国野営大会に秩父宮殿下で台臨
福島・猪苗代湖畔。陪食を賜る後藤総裁他役員(084)。磐梯山に登山される秩父宮殿下(085, 086)。「少年団研究」(第1巻第5号)

01-084

1924



01-085

1924



01-086

1924



第2回世界ジャンボリー

デンマーク・コペンハーゲンで開催。日本派遣団による武道演技。「日本連盟アルバム」

01-087

連盟歌「花はかほるよ」制定
1924年(大正13)11月15日、文部省会議室において第1回全国総会を開催、総裁後藤新平氏を総長に推戴し、また、懸案となっていた連盟歌を制定した。「健児唱歌」少年団日本連盟



01-089

山田耕作
(やまだ こうさく)氏
「花はかほるよ」作曲者
「日本連盟アルバム」



01-088

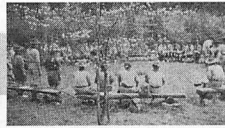
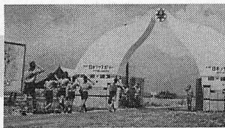
高原しげる
(くずはら しげる)氏
「花はかほるよ」作詞者
「日本連盟アルバム」



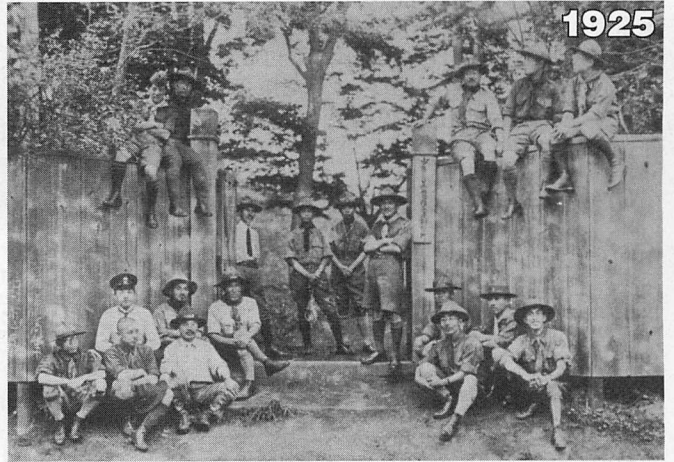
ゆる意味で変わろうとしてきています。これは日本だけでなく、発祥の地英国をはじめとする世界的な動きです。「規則や制度など、時代や社会の変化にあわせてどんどん変えていくべきだ」という考えと、「あくまでも伝統を守り、同じやり方を貫くべきだ」という考えが存在し、「スカウティング」誌上でも議論となったことがあります。大きな運動体にとっては、永遠のテーマかもしれません。

「だけど、変えていいものと思いつたものがある。スカウト運動の何を大切に守り、受け継いでいくべきなのか、どの部分を変えていくべきなのか、そこをどこを見失ってはいけない」

廣瀬氏の言葉に一段と力がこもりました。問もなく二一世紀。次の時代のために、私たちは何を守り、何を伝え、そして何を変えていくべきなのか。原点に帰るとはどういうことなのか。フォトCDの中には、そのヒントも収録されているのではないのでしょうか。上段で紹介しているキャプションを読んでいただくだけでも、何かを感じてもらえると思います。



1925



第1回指導者訓練所 門前に集う佐野所長と参加者

東京・高松宮御用地。第1回指導者訓練所となっているが、指導者養成の基礎作りのための実験キャンプともいえるもので、4月18日より5月24日まで、週末を使って5回実施された。なお、指導者訓練所は、後に「指導者実修所」と改められた。第1回指導者訓練所修了者は次のとおり。

佐野常羽、二荒芳徳、吉野順一、高瀬榮三、尾崎忠次、西村平太、寺岡一義、戸田和夫、三島通陽、福島四郎、深尾韶、細野浩三、芦谷泰造、田村喜一郎、白井茂安、本庄俊輔、原道太、奥寺龍溪、花田忠市郎、黒岩重男、藤山精一。「日本連盟アルバム」

02-023

1925

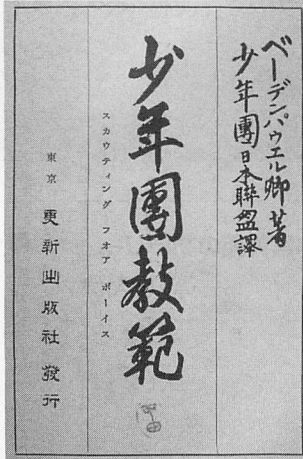


第2回全国野営大会

山梨・山中湖畔。参加スカウトを視閲する後藤総長。
「少年団日本連盟第貳回野営記念写真帖」

02-045

和訳SFB



「少年団教範」刊行
1925年(大正14)。「スカウティング・フォア・ボーイズ」の和訳・日本語版。第2回世界ジャンボリーの参加者の中から数名が翻訳に当たった。
日本連盟所有

02-051

1925



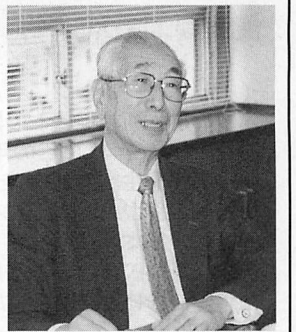
秩父宮殿下とB-P

秩父宮殿下は、5月24日、御召艦・出雲にて渡英され、12月4日、イギリスのボーイスカウト本部をご訪問、親しくB-Pと少年団について語り合われた。

「日本連盟アルバム」

廣瀬文一(ひろせあやかず)

「フォトCD」監修



大正3年5月21日生

大正13 横浜少年義勇団に入団

昭和4 第3回世界ジャンボリー参加

昭和31 日本連盟名誉役員

昭和32 日本連盟理事

昭和35 東京第171団設立、同団委員長

昭和48 日本連盟中央審議会議員

昭和49 東京連盟理事

昭和51 東京連盟副理事長

昭和58 日本連盟中央審議会議長

昭和59 東京連盟理事長

現在、東京連盟連盟長代行、副連盟長、日本連盟相談役

下田雅(しもだただし)

「フォトCD」編集



元日本連盟資料センター課長

戦後初のボーイスカウト隊(試験隊)発足

東京・成城学園。1946年(昭和21)、東京ボーイスカウトクラブの名称で再建のための会合を重ね、GHQより条件付きではあるが再建の内諾を得たので、臨時中央本部を設立し、本格的な準備に取りかかった。1947年(昭和22)1月、GHQより付された条件に従って、試験隊(ボーイスカウト隊)を東京に5隊、横浜に1隊結成した。成城学園の隊が、東京第1隊として活動を開始した。
 「日本連盟アルバム」



03-016



第1回全日本ボーイスカウト全国大会

東京・皇居前広場。加盟隊530ご隊、スカウト数1万名を超えるに至った連盟は、この期に参加できる隊を受け入れて、大会を開催した。天皇・皇后両陛下、皇太子殿下(現・天皇陛下)、義宮殿下のご台臨を仰ぎ、日比谷公園において、技能大会を催した。三笠宮殿下ご夫妻もご見学に見えられた。
 「日本連盟アルバム」

東京・明治神宮外苑の初ラリー

03-004



03-005



再建を記念して、6ご隊合同ラリーが開催された。活動を
 ご覧になる皇太子殿下(現・天皇陛下)
 「日本連盟アルバム」

ジュビリー・ジャンボリー

04-008



イギリス・サットンコールドフィールド。世界ジャンボリーは通常4年ごとの開催だが、第8回世界ジャンボリーから2年後のこの年、スカウト運動創始50周年およびB-P生誕100年を記念し、第9回世界ジャンボリー(ジュビリー・ジャンボリー)が開催された。日本連盟は、日本派遣団サイトを訪問されたレディ・ベーデン・パウエルと、ご子息ピーター・ベーデン・パウエル氏にきじ章を贈呈した。
 「日本連盟アルバム」

03-095



第1回日本ジャンボリー

長野・軽井沢。皇太子殿下(現・天皇陛下)をお迎えしての大パレード。これまでの「全国大会」を改称し、日本における最初のジャンボリー「第1回日本ジャンボリー」が開催された。浅間山を望むジャンボリー会場には、海外からのスカウトを含め13,000名が集い、各所に交歓の花が咲き、歓声が高まりました。
 「日本連盟アルバム」

1962



レディ・ベードン・パウエル来日

レディ・ベードン・パウエルは、ガールスカウト日本連盟の招きを受けての初来日。東京・海運クラブでの記念講演会終了後、二荒総コミッショナーと親しく握手を交わした。後ろは三島総長。 [日本連盟アルバム]

1962



アジアジャンボリー (第3回日本ジャンボリー)

静岡・御殿場。皇太子、同妃両殿下(現・天皇、皇后両陛下)は、スカウトの歓迎に手を振ってお応えになった。

[アジアジャンボリー(第3回日本ジャンボリー)記録帖]

皇太子殿下(現・天皇陛下) ご一家をお迎えして

静岡・御殿場での第7回日本ジャンボリー。皇太子ご一家がお揃いでジャンボリーにおいでくださったのは今回が初めてであり、参加者一同温かくお迎えした。会中には福田首相もお孫さんを連れて見学に来られた。なお、ジャンボリー期間中に、植村甲午郎総裁死去の訃報が「ジャンボリー新聞」にて知らされた。 [第7回日本ジャンボリー記念アルバム]

04-089

1978



1971



第13回世界ジャンボリー

静岡・朝霧高原。ワイドゲームに参加した各国スカウト。“そなえよつねに”の7文字が全部揃うように仲間を集め、相互理解と友好親善に役立てるゲームが、会場内全域にわたって展開された。

[13TH WORLD JAMBOREE]

☑ 今月の特集に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。ご紹介させていただいたのは、ほんの一部にすぎません。今後の参考とさせていただきますので、資料公開に関するご要望等も、あわせてお寄せください。

(財)ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課 資料センター
TEL 0422-31-5163/FAX 0422-32-0010

ビーバースカウト隊発足

1975年(昭和50)8月、デンマーク・コペンハーゲンで開催された第25回世界会議において、「カブ年齢未満児層の少年のニーズとプログラムと加盟組織全体との関係について注意深く研究するよう切望する」との決議がなされた。これを受けて、日本連盟では特別委員会を設置して検討に入った。特別委員会では実験隊を編成して調査研究を重ね、その結果を中央審議会に答申、中央審議会はビーバースカウトとして小学校低学年の児童の加入を昭和60年度の全国会議に提案し、承認を得、ビーバースカウト隊が発足した。 [日本連盟アルバム]

04-099

1986

